

第59回試験研究成果発表会（果樹）発表概要

【動画配信期間】 令和4年2月21日（月）～3月18日（金）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

ラビットアイブルーベリーで収穫しやすい位置に花芽をつける夏季剪定技術の検証

果樹研究室 井上 雄樹

県内の観光農園等で導入されているラビットアイブルーベリーは樹勢が強く、冬季の剪定だけでは、上向きに伸長する新梢に果実を着果させることが困難です。そこで、夏季の新梢の剪定により、花芽の着生位置を下げる技術を検証しました。その結果、主軸枝から発生した新梢を、先端から25～50%の位置で、9月中旬までに切り返し剪定を行うことで、収穫しやすい位置に花芽を着生させられることが確認されました。



夏季剪定した新梢



夏季剪定した位置に着果した果実

発表2 成果発表

ニホンナシ「秋満月^{あきみつき}」の育成及び適正着果基準

果樹研究室 押田 正義

ニホンナシ「秋満月（千葉 K3 号）」は平成 29 年に品種登録され、現地試作を経て令和 3 年にデビューしました。「秋満月」は短果枝の着生は良好ですが、どのような位置に着果させれば良いか、側枝の更新は何年ごとに行うのが良いか等については明らかではありませんでした。

そこで本発表では、「秋満月」の育成経過と適正な着果基準、側枝の使用年限について報告します。



「秋満月」の着果状況



「秋満月」の果実

発表3 成果発表

ニホンナシ「秋満月」におけるみつ症の発生
～「豊水」のみつ症との比較～

果樹研究室 吉田 明広

令和3年度にデビューした「秋満月」は生理障害の一種であるみつ症が発生します。このみつ症が重症化した場合、販売に問題が生じるために対策が必要です。そこで、みつ症の発生調査や様々な試験を行い、「豊水」で発生するみつ症と比較し、特性を明らかにしました。その結果、「秋満月」のみつ症は、「豊水」のみつ症と似た状況で発生することが確認されました。本発表では、「秋満月」のみつ症と「豊水」のみつ症の比較を中心に試験結果を紹介します。



「秋満月」みつ症重症果の横断面



ポリ袋被覆処理によるみつ症誘発試験

発表4 成果発表

フラワーネットを用いたニホンナシの簡易式育苗施設による大苗育苗方法の開発

果樹研究室 吉田 明広

ニホンナシの改植において、未収益期間を短縮するために大苗を定植することが増えていきます。従来の大苗の育成は大規模な設備で大量に大苗を育成する方式が主流ですが、少量を簡易に育成するニーズに応えるためにフラワーネットを用いた簡易大苗育苗法を開発しました。本発表では、簡易大苗育苗法の概要と、同法を用いて「幸水」のジョイント用大苗及び2本主枝一文字整枝用大苗を育成した検証結果を中心に紹介します。



定植時の簡易大苗育苗施設



生育期の簡易大苗育苗施設

発表5 成果発表

DMI 剤耐性ナシ黒星病菌の簡易なモニタリング法の開発について

病理昆虫研究室 青木 由

DMI 剤はナシ黒星病の効果的な薬剤ですが、他県では薬剤が効きにくい耐性菌の発生が問題となっています。そこで、千葉県における耐性菌の発生実態を把握するため、生産現場でも実施可能な簡易なモニタリング法として、DMI 剤等の薬剤散布条件の異なる鉢苗を圃場に設置し、その後の鉢苗の発病状況を調査する手法を開発しました。また、従来の耐性菌検定手法である接種試験を併せて行いました。その結果、いずれも圃場でも DMI 剤の防除効果は高く、耐性菌の発生は確認されませんでした。



ナシ黒星病の発病葉



圃場に設置した鉢苗によるモニタリング

発表6 成果発表

白紋羽病菌非病原性菌株を用いて作製したナシ白紋羽病発病抑止土壌の効果

生物工学研究室 高橋 真秀

新たな白紋羽病対策技術として白紋羽病非病原性菌株を用いて白紋羽病発病抑止土壌を作製する方法が近年報告されました。

千葉県ナシ園土壌における効果を明らかにするため、各地域のナシ園から採取した土壌に白紋羽病菌非病原性菌株を培養したナシ剪定枝チップを混和したところ、全ての土壌で白紋羽病菌に対する複数の土着の拮抗菌が増加することが分かりました。ポット試験により明らかになった発病抑止効果と、推定される発病抑止メカニズムについて紹介します。



白紋羽病菌非病原性菌株を培養したナシ剪定枝チップ



白紋羽病非病原性菌株混和土壌の発病抑止効果（ポット試験）

発表7 成果発表

パッションフルーツの育苗技術

～露地栽培での定植に適した草丈 150cm 以上の苗木を育成するには～

暖地園芸研究所 特産果樹研究室 小野瀬 優哉

パッションフルーツは観光・直売に適した園芸品目として注目され、近年、県南部を中心に導入が進んでいます。しかし、露地栽培では越冬が難しいため、毎年苗木を育成し植え替える必要があります。そこで、露地栽培での使用に適した草丈 150cm 程度の苗木を、定植適期の5月上旬までに効率的に生産するための育苗技術について、挿し木や鉢上げの際の適切な管理方法を明らかにしたのでご紹介します。



挿し木の様子



ロングポットへ植え替え後の様子